

2016年度公益財団法人熊本YMCA事業報告書

[公益目的事業]

A. ウェルネス事業 (野外教育活動及び健康教育活動)

1. 野外教育活動

(1) 自然体験活動

【活動計画及び目標人数】

①通年野外クラス

1)アウトドアシーズンクラブ (宿泊を伴う野外活動)

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
平均	2名	2名	2名	5名	2名	2名	4名	2名	10名	11名

[年間評価]

今年度は、震災の影響で活動場所などに制約を受けたこともあったが、野外活動に加え、防災教育も含んだプログラムの展開を行った。

2)サタデーアウトドアクラブ (日帰り野外活動)

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
平均	1名	2名	8名	10名	5名	6名	4名	2名	18名	20名

[年間評価]

年度途中で体験者などもあり入会などに繋がったが、結果として予算を達成することができなかった。

※通年野外クラス、経済的事由による参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数	0名	0名	1名	2名	3名

②季節野外活動

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	予算	実数								
土日キャンプ	15名	—	20名	—	25名	—	20名	23名	80名	23名
春期キャンプ	20名	25名	—	8名	15名	24名	20名	25名	55名	82名
夏期キャンプ	110名	93名	105名	81名	120名	76名	135名	92名	470名	342名
冬期キャンプ	68名	92名	73名	115名	56名	110名	57名	94名	254名	411名
合計	213名	210名	198名	204名	216名	210名	232名	234名	859名	858名

[年間評価]

震災の影響により夏期のキャンプ数が減り参加者数が減少した。冬期のキャンプは、こども応援プロジェクト(罹災証明取得家庭のこども参加費の減免措置)により参加者数が増加した。

※季節野外クラス、経済的事由による参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数	2名	0名	1名	0名	3名

※季節野外クラス、震災支援こども応援プロジェクトによる参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数	86名	56名	108名	87名	337名

③障がい児支援キャンプ

プログラム名	担当部署	実施日	参加人数
第43回ポニーキャンプ (熊本盲学校との共催)	本部	7月23日～24日 (熊本地震のため中止)	
第15回コスモスキャンプ (日本自閉症協会熊本県支部との共催)	阿蘇	8月16日	児童：12名 ボランティア等：40名

[年間評価]

<ポニーキャンプ>

熊本盲学校より「震災の影響により本年度は見送りたい」との申し出があり中止とした。震災に伴う夏休み期間変更の影響によるものである。

<コスモスキャンプ>

例年は、1泊で阿蘇YMCAを会場に開催していたが、震災の影響でデイキャンプとし、会場を保健科学大学に移し実施した。プール遊び、ウォータースライダー、ストラックアウト、水鉄砲遊びなどを多くのリーダーにサポートをいただきながら実施した。

④災害児支援キャンプ

プログラム名	担当部署	実施日	参加人数
第5回あそぼうキャンプ	阿蘇	8月18日～20日	児童：30名 ボランティア等：42名
第1回あおぞらキャンプ	会員部	3月26日～29日	児童：34名 ボランティア等：9名

[年間評価]

<あそぼうキャンプ>

今回は、東日本財震災、九州北部災害の被災者に加え、熊本地震で被災した阿蘇市、大津町、熊本市、御船町の子どもたちも加わり、山口県宇部市を会場実施した。日本EMDR学会の精神科医、外科医、小児科医、臨床心理士からYMCAキャンプを通じた心のケアを行っていただいた。

<あおぞらキャンプ>

熊本地震で被害の大きかった益城町と御船町の子どもたちを招待して実施した。26年前に普賢岳の噴火により被災した雲仙を訪れ、当時の状況と復興について学ぶこととキャンプを通して震災で傷ついた子どもたちの心のケアを行うことを目的とした。また、26年前に被災した大野木場小学校の現小学生21名が、熊本の子たちに元気を送りたいと会いに来てくれ、これからのお互いの復興について熱く語り合うことができ、復興への思いが更に大きくなったようである。

(2) リーダーシップ養成活動

プログラム名	担当部署	実施日	参加人数
キャンプリーダートレーニング	野外教育	5月24日(中止) 12月6日	12月開催10名
熊本YMCAリーダー研修会	野外教育	9月25日	18名

[年間評価]

<キャンプリーダートレーニング>

熊本地震のため5月のリーダートレーニングは中止し、12月のみ実施した。熊本YMCAリーダー研修会は9月25日に実施し、中谷三保子先生(帝京平成大学名誉教授・臨床心理学博士)からストレスエクササイズや痛みのコントロール法について指導を受け、子どもたちのストレスケアについて学んだ。

(3) 自然環境の保全活動

プログラム名	担当部署	実施日	参加人数
植林事業（森林探検隊） （会場：YMCA黒川保育園）	野外教育	6月12日	80名
環境教育プログラム （会場：YMCAの石キャンプ場ほか）	阿蘇	6月19日（中止）	1名
		8月28日（中止）	1名
		3月20日	20名
熊本県青年森林協力隊推進事業	野外教育	11月13日（中止）	1名
YMCA地球発見キャンプ	阿蘇	8月24日～26日（中止）	1名

〔年間評価〕

1) 植林事業：

6月12日に昨年新築移転した黒川保育園園庭に、全国から熊本復興支援で駆けつけてくれたボランティアと共に、桜・もみじを植林した。

2) 環境教育プログラム：

6月、8月は熊本地震のために実施できなかったが、3月はファミリーキャンプのプログラムとしての石キャンプ場のブルーベリー、桜の手入れを行った。

3) 熊本県青年森林協力隊推進事業

熊本地震のため、中止した。

4) YMCA地球発見キャンプ

熊本地震のため、中止した。

2. 健康教育活動

(1) スポーツ活動

ア. 子どもスポーツ活動

【活動計画及び目標人数】

①通年クラス

1) 体育英語幼稚園

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
平均	20名	21名	—	—	20名	16名	10名	12名	50名	49名

〔年間評価〕

全体として予算定員は全体で確保できたが、震災以降、休会や退園が数名あった。今年度は内部充実を図り、メンバー・保護者の満足度向上を目指した。今後、年間を通してのベビープログラムへのアプローチを含めた募集戦略が課題となる。

2) 体操

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	予算	実数								
平均	225名	238名	275名	333名	185名	171名	280名	252名	965名	994名

〔年間評価〕

新規コーディネーションクラスは一定の募集成果を得た。夏期講習会からの編入が予想数を上回り、予算定員の確保が全体でできた。新規コーディネーションクラスは好調を継続し、次年度に向け拡充を図っていくことに努める。

3) 新体操

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
平均	10名	8名	20名	34名	50名	43名	30名	49名	110名	134名

[年間評価]

指導者交代の影響があり指導力低下が課題であったが、下半期は、課題対策の成果により地域によっては微増した。保護者と連携し内部満足度向上を目指す。

4) サッカー

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
平均	20名	17名	100名	80名	165名	126名	85名	83名	370名	306名

[年間評価]

熊本地震以降、グラウンド等施設復旧の目処が立たず再開できないクラスがある中で、低年齢の入会者獲得に苦戦した。体験キャンペーンなどを含めたアプローチを改善し、次年度募集に向け強化を図っている。

5) 水泳

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
平均	—	—	990名	1,018名	1,090名	1,104名	890名	913名	2,970名	3,035名

[年間評価]

年度末も3,000名を維持することができた。内部充実及びメンバーの目標設定を明確に行ったことで退会抑制につながった。

6) ヒップホップ (チアダンス含む)

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
平均	10名	12名	20名	8名	50名	40名	65名	52名	145名	112名

[年間評価]

外部講師の交代による影響が大きく、メンバー数が安定していないクラスもあった。夏以降の入会者獲得が厳しい状況にあり、目標を下回った。講師とのコミュニケーションを十分に図って取り組んでいく必要がある。

※通年クラス、経済的事由による参加費減免制度の利用者数参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数	7名	8名	15名	24名	54名

②講習会

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
春期	95名	112名	110名	145名	180名	195名	140名	138名	525名	590名
夏期	95名	119名	415名	374名	390名	405名	370名	305名	1,270名	1,203名
冬期	85名	82名	115名	132名	185名	277名	145名	166名	530名	657名
合計	275名	313名	640名	651名	755名	877名	650名	609名	2,320名	2,450名

[年間評価]

春期は定員を確保することができた。夏期は、震災の影響で募集開始時期が遅れことからクラス内容と定員数を変更し実施した。冬期は定員を確保できたため、年間の定員を確保することができた。

※講習会、経済的事由による参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数	1名	0名	0名	1名	2名

※講習会、震災支援こども応援プロジェクトによる参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数	93名	107名	253名	158名	611名

イ. 発達障がい支援活動

【活動計画及び目標人数】

①通年クラス

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
平均	6名	4名	20名	26名	30名	24名	—	—	56名	53名

[年間評価]

<中央>

年間を通して様々な活動を行う中で、少しずつではあるが、協調性や相手を尊重する力がついてきた。心と身体の成長も見られた。療育的な要素を含め、ティーチの活用や感覚統合を用いた活動を行い、参加者にはスモールステップではあるが改善がみられる。小学校1年生の参加者は学校で前回りができるようになったと、保護者の方よりうれしい報告があった。

<みなみ>

熊本地震以降、指導者の人数確保が人数に対して困難になったが、入会ニーズは有り個別に対応を行ってきた。指導者の質向上が課題であり、それぞれのニーズにあった対応を心がけていきたい。

<ながみね>

大きな変動はないが、フロアとプールの両方を受講しているメンバーの場所移動含めてケアが必要である。ロコミでの入会が多いため、プログラムの質の維持向上や細やかなケアを継続したい。

※通年クラス、経済的事由による参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数	0名	0名	0名	—	0名

②キャンプ

		中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
		予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
デイキャンプ	7月	—	—	3名	0名	3名	3名	—	—	6名	3名
	12月	—	—	3名	0名	3名	0名	—	—	6名	0名
秋期キャンプ	9月	—	—	3名	0名	3名	0名	—	—	6名	0名
冬キャンプ	2月			3名	0名	3名	0名			6名	0名
合計		—	—	12名	0名	12名	3名	—	—	24名	3名

[年間評価]

<みなみ>

今年度は、震災の影響もあり企画・実施することができなかった。

<ながみね>

地震の影響もあり、7月デイキャンプ以外は実施ができなかった。次年度は計画的に実施したい。

※講習会、経済的事由による参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数	0名	0名	0名	—	0名

ウ. 成人スポーツ活動

【活動計画及び目標人数】

①通年クラス

	みなみ		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
アクア	○		○		○			
ジム	○		—		○			
フィットネス	○		○		○			
平均	790名	809名	175名	186名	715名	798名	1,680名	1,793名

〔年間評価〕

熊本地震以降、公共施設の利用が出来ないことが影響し、現在も入会者が増加している。一方で公共施設再開と同時に退会者が出ないよう、施設利用者の満足度を高めるため器具の修繕や館内美化に一層取り組んだ。公共施設の再開により3月末での退会が少しずつ目立ち始めたが、今後も満足度向上を図り、内部充実を図ることに努めたい。

②水泳・たいそう教室

	みなみ		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
平均	20名	20名	10名	19名	10名	14名	40名	53名

〔年間評価〕

夏以降も水泳会員が退会することなく、参加者一人ひとりに合わせた新たな目標設定を行うことができた。このことが退会抑制にもつながっている。

エ. 高齢者スポーツ活動

【活動計画及び目標人数】

①メディカルチェック費用無料者（60歳以上の参加者：人数はウ①通年クラスを含む。）

	みなみ		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
合計	60名	23名	—	—	60名	28名	120名	51名

〔年間評価〕

熊本地震の影響等もあり、参加者は地域間でバラつきが生じた。公共施設の利用が出来ないため、入会数は増加傾向にあった。メディカルチェック参加者のすべてが60歳以上であり、リピーターとなっているため、新規獲得に向けたアプローチが課題となっている。

(2) 地域支援活動

【活動計画及び目標人数】

①水の安全キャンペーン

プログラム名	中央	みなみ	上通	ながみね	むさし	阿蘇	御船	益城	計
水の安全ハンドブック 配布部数	1,220	2,400	30	2,400	3,100	700	100	150	10,180
配布先：小学校	17校	37校	1校	23校	42校	6校	6校	5校	137校
幼稚園	—	1園	—	2園	—	—	7園	4園	13園
保育園	—	—	—	4園	—	4園	6園	6園	20園

〔着衣水泳指導先〕

校・園名	期日	曜	対 象	人数	実施Y	指導者
かすみ保育園	6月28日	火	年中～年長	66名	むさし	2名
白川保育園	6月29日	水	2歳児～年長	101名	むさし	2名
ひろやす保育園	6月30日	木	年中～年長	37名	ながみね	2名
白川幼稚園	7月1日	金	年少～年長	160名	むさし	2名
嘉島西小学校	7月1日	金	5年～6年	127名	みなみ	3名
御幸小学校1)	7月4日	月	1、5、6年	230名	みなみ	3名
御幸小学校2)	7月5日	火	2、3、4年	320名	みなみ	3名
ひろやすにし保育園	7月6日	水	年中～年長	37名	ながみね	2名
出水小学校1)	7月7日	木	1、3、5年	230名	みなみ	3名
日吉東小学校	7月8日	金	6年生	81名	みなみ	3名
川尻保育園	7月13日	水	年長	16名	みなみ	2名
西原小学校	7月14日	木	5、6年	250名	ながみね	2名
YMC A阿蘇保育園	7月14日	木	4保育園年長	130名	むさし	3名
津森小学校	7月15日	金	1年～6年	89名	ながみね	2名
菊陽南小学校	7月20日	水	1年～6年	80名	むさし	2名
飯野小学校	7月22日	金	1年～6年	101名	ながみね	2名

②指導者派遣（熊本市内及び周辺地域）

場所	プログラム	日程	対象	人数	実施Y	指導者
ながみね	プール開放	6/19 7/3	被災者 小学生	54名	ながみね	—
身障者福祉センター	運動指導	5/16-31	入所者 避難者	延べ120名	ながみね	ウエルス スタッフ
ながみね近隣広場	外遊び教室	5/10-31	小学生	15名	ながみね	ウエルス スタッフ

派遣先団体名称	内容	日程	曜日	対象	人数	実施Y
月出小3町内子ども会	レクリエーション	4/17	日	小学生	50名	ながみね
月出小2町内子ども会	レクリエーション	4/24	日	小学生	80名	ながみね
出水南1町内子ども会	レクリエーション	5/8	日	小学生	25名	みなみ
出水南校区1町内子ども会	レクリエーション	5/8	日	小学生	30名	ながみね
楠子ども会	レクリエーション	5/15	日	小学生	50名	むさし
桜木校区4町内子ども会	親子活動	5/15	日	親子	30名	ながみね
田迎西小学校	みんな泳げる 25m運動	6/19	日	小3-小6	21名	みなみ
画図小学校	みんな泳げる 25m運動	6/19	日	小3-小6	21名	みなみ
託麻南小学校	みんな泳げる 25m運動	6/19	日	小学生	39名	ながみね
津森小学校	みんな泳げる 25m運動	7/6	水	小学生	90名	ながみね
一新小学校	みんな泳げる 25m運動	7/16	土	小2-小3	20名	学院
田迎西小3学年行事	レクリエーション	8/21	日	小3	60名	みなみ

白川小1年生保護者	レクリエーション	9/17	土	小1	100名	中央
尾ノ上小1年生	親子活動	9/27	火	親子	150名	ながみね
西合志東小クラス活動	レクリエーション	10/29	土	小1	40名	むさし
大津小学校5-2	親子活動	11/5	土	親子	50名	ながみね
若葉小学校	親子活動	2/19	土	親子	30名	ながみね

B. 子育て支援事業

1. 幼児保育活動（ぶどうの木幼稚園）

【活動計画及び目標人数】

①ぶどうの木幼稚園（みなみYMCA）

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	15名	15名	14名	11名	55名
平均	19名	15名	12名	11名	57名

〔年間評価〕

震災以降も積極的に新入園児を受け入れた。新年度募集も好調であり、地域子育て支援の貢献を今後も果たしていきたい。

※経済的事由による参加費減免制度の利用者数

	みなみ
利用者数	0名

2. アフタースクール（学童保育）

【活動計画及び目標人数】

①通年クラス

1)アフタースクール

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
平均	—	—	20名	25名	—	—	19名	14名	39名	39名

〔年間評価〕

<みなみ>

熊本地震以降、人数に変動はあったものの10月以降は安定した。今後もプログラムの精度を高め安全な運営に努めたい。新年度の募集も好調であることから地域ニーズと合致していることがうかがえた。

<むさし>

1年生の新規参加者の増加もあり、共働きの保護者のニーズに細やかに対応している。学校の育成クラブ後からの預かりもアピールしているが定員には到達していない。参加者は絵画・英語・スポーツ教室など様々なプログラムを通して人格的な成長ができているようである。YMCAでの滞在時間が長いため、YMCA理解が深くアフタースクール以外の特別プログラムに積極的に参画できていることは評価できる。

2) カルチャー教室（児童絵画・書道・空手・そろばん）

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
平均	—	—	—	—	30名	29名	—	—	30名	29名

〔年間評価〕

参加ニーズが高く、特にそろばんの問い合わせが多い。習い事のブームなどの影響もあるが、講

師数とも相談しながら教室運営を行っていききたい。

※通常クラス、経済的事由による参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数	—	0名	0名	0名	0名

②講習会

	中央		みなみ		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
春期	—	—	36名	57名	—	—	—	10名	36名	67名
夏期	—	—	80名	131名	—	—	24名	23名	104名	154名
冬期	—	—	16名	54名	—	—	3名	—	19名	54名
合計	—	—	132名	242名	—	—	27名	33名	159名	275名

[年間評価]

<みなみ>

夏期・冬期については、保護者が選択しやすい申込コースを設定したことにより多くの参加者を得ることができた。今後も継続していきたい。

<むさし>

定員に対して1名のマイナスではあるが、デイキャンプや宿泊キャンプなども利用しながら、定期的に参加プログラムの一つとして選ばれている。何れも共働きの保護者のニーズを満たす内容となっており、満足度は高い。

※講習会、経済的事由による参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数	—	4名	0名	0名	4名

※講習会、震災支援こども応援プロジェクトによる参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	ながみね	むさし	計
利用者数	—	37名	0名	9名	46名

C. 国際理解・国際教育活動 (国際交流活動及び語学教育活動)

1. 国際交流活動

【活動計画及び目標人数】

①海外派遣

プログラム名	担当部署	実施日	参加数
タイ・ユースワークキャンプ	上通	8月31日～9月10日	3名
		3月3日～13日	9名

[年間評価]

<上通>

タイ・ユースワークキャンプ:

夏季(3名)と春季(9名)で実施した。北部タイの山岳少数民族の村を訪れ、現地の人々との交流を行い、多文化共生そして地球市民としてのありようを学ぶ機会をもった。

②海外受入

プログラム名	担当部署	実施日	受入数
ICCPJ 海外キャンプカウンセラー受入 (ICCPJ: インターナショナル・キャンプカウンセラー・プログラム)	阿蘇/ 上通	7月21日～8月21日(中止) 阿蘇研修前後の約1週間 (中止)	1名
東ティモール受入れ	上通/ ながみね	9月4日～8日	2名

[年間評価]

<阿蘇>

ICCPJ: 熊本地震の影響で受入れを中止した。

<上通>

ICCPJ: 熊本地震の影響で受入れを中止した。

東ティモール:

9月4日～8日で、YMCAスタッフ2名の受け入れを行った。震災後の阿蘇訪問やこどものサッカープログラムを中心に体験を行った。子どもたちにとって、良き国際交流の機会となった。

<ながみね>

東ティモール:

9月4日～8日で、YMCAスタッフ2名の受け入れを行った。サッカーや幼児プログラムなどの見学と研修、近隣の小学校や関係団体との交流を通して平和を考える機会をつくった。また、現地サッカープログラムの支援の一環としてサッカー用具を寄贈した。

③国内交流

プログラム名	担当部署	実施日	参加数
広島ピースセミナー	上通	8月4日～6日	2名
PHD協会研修生との交流	上通	1月12日	3名

[年間評価]

1) 広島ピースセミナー:

3名の参加予定だったが、直前にキャンセルとなり、2名となった。少ない人数ではあったが、現地では多くのユースと平和について考える時を持つことができた。また、日本以外の国からの参加者も多く、国際交流もできた。コミュニケーションのツールとしての英会話の必要性も十分に感じる事ができたと思う。

2) PHD協会研修生との交流:

公益財団法人PHD協会から、農業、保健衛生などを学ぶ第35期研修生3名(インドネシア、ネパール、ミャンマー出身)と職員が熊本YMCAを訪問した。YMCAからは熊本地震の活動報告を、研修生からは日本で取り組んだ研修報告が行われ、交流を行った。

2. 語学教育活動

(1) 国際理解を深めるための外国語教室

ア. 子ども英語教育活動

【活動計画及び目標人数】

①Z o oクラブ

	中央		みなみ		上通		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
平均	19名	19名	34名	34名	4名	4名	21名	26名	12名	10名	90名	93名

[年間評価]

年間を通して安定的な運営ができた。体育英語幼児園、ぶどうの木、水前寺幼稚園からの入会率が6割以上と高い。今後も他事業部との連携を図り、安定した募集に繋げていきたい。

②子ども英語クラス

	中央		みなみ		上通		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
平均	57名	57名	219名	207名	—	—	159名	136名	167名	155名	602名	555名

[年間評価]

前半は順調に推移していた継続生数が終了時には45名減となり、マイナスの大きな要因となってしまった。熊本地震の影響も少なからずあったかと思うが、参加者へのフォロー、アプローチが安定して行えなかったことも影響してのことだと考える。以前から要望の声が多かった振替制度を導入することで継続率・入会率を高めたい。

※通常クラス、経済的事由による参加費減免制度の利用者数

	中央	みなみ	上通	ながみね	むさし	計
利用者数	2名	2名	0名	1名	1名	6名

イ. 成人語学教育活動

【活動計画及び目標人数】

①英会話クラス

	みなみ		上通		ながみね		むさし		計	
	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数	予算	実数
平均	40名	29名	139名	138名	4名	4名	40名	28名	223名	199名

[年間評価]

みなみ・むさしでのマイナスを引きずる形となった。上通に集約するかを見極める必要があるところまで来ている。内部会員へのアピールも含め、やり残しがないよう取組み判断していく。

※通常クラス、地球市民育成のための参加費減免制度（高校生～大学生）の利用者数

	みなみ	上通	ながみね	むさし	計
利用者数	2名	34名	0名	8名	44名

②目的別クラス

	上通	
	予算	実数
平均	20名	17名

[年間評価]

目的別、世界のことばも、英会話同様に熊本地震の影響を受けて募集不振のまま上半期を折り返す。その他の要因として、韓国語・中国語の不振がある。近隣諸国との国家間の関係が、募集に反映されやすく、新規受講者獲得が難しい状況が続いた。予算値に対しては若干届かなかったが、年間を通しての在籍者数は安定していた。継続率を維持しつつ、新規受講者獲得を目指していく。

③世界のことば

	上通	
	予算	実数
平均	55名	50名

(2) 国際理解を深めるための日本語教室

【活動計画及び目標人数】

①日本語学校（短期留学コース）

	上通	
	予算	実数
平均	7名	10名

②日本語教師養成クラス

	上通	
	予算	実数
平均	6名	6名

③日本語教育能力検定

	上通	
	予算	実数
平均	2名	1名

[年間評価]

3ヶ月の短期集中及び夏期集中、冬期集中コースの在籍平均値は、年間を通して予算値を上回る事ができた。日本語教師養成クラスはほぼ予算どおり、日本語教育能力検定は予算に満たなかった。

[収益事業等]

1. 宿泊及び料飲に関する事業 (阿蘇YMC A)

【活動計画及び目標人数】

宿泊利用者				飲食提供者			
予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)	予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)
317名	299名	3803名	3585名	706食	653食	8470食	7387食

[年間評価]

熊本地震以降、災害ボランティアセンターとして全国からのボランティアの受け入れを行い、阿蘇市、南阿蘇村、益城町、御船町へのボランティア活動を行った。4月、5月の通常営業できなかった影響を受けつつも、ボランティアの宿泊受け入れと、秋以降、通常の宿泊者の利用も再開し、昨年度と、比較し△54名と例年並みに近づくことができた。

[災害ボランティア受入数]

	実人数	延べ人数		実人数	延べ人数		実人数	延べ人数
4・5月	494名	1,019名	9月	109名	233名	1月	23名	50名
6月	116名	495名	10月	61名	106名	2月	60名	154名
7月	163名	463名	11月	77名	135名	3月	226名	259名
8月	240名	694名	12月	22名	48名	計	1,591名	3,656名

2. 指定管理施設受託及びそれに附帯する事業

(1) 福岡県大牟田市所有の多目的活動施設「リフレッシュおおむた」の管理運営

【活動計画及び目標人数】

①施設利用 (主催事業以外)

1) 宿泊利用

屋内利用者				キャンプ場利用者			
予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)	予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)
242名	213名	2,900名	2,551名	58名	47名	700名	567名

2) 日帰り利用

キャンプ場				和室			
予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)	予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)
350名	359名	4,200名	4,305名	558名	492名	6,700名	5,904名

体育館				クライミングウォール			
予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)	予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)
1,200名	1,307名	14,400名	15,681名	183名	188名	2,200名	2,259名

料理室				研修室			
予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)	予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)
475名	456名	5,700名	5,472名	475名	537名	5,700名	6,444名

音楽室				創作室			
予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)	予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)
25名	20名	300名	245名	142名	137名	1,700名	1,638名

交流室			
予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)
167名	170名	2,000名	2,034名

〔年間評価〕

4月14日、16日の熊本地震の影響により、4月から7月の間で施設予約キャンセルが入ったために、各施設が昨年の実績の75%から80%の利用率にとどまった。昨年度工事のため使用できなかった体育館及びクライミングウォールは例年並みの利用者を獲得することができた。3月は、長期宿泊団体のキャンセルがあり宿泊者数を伸ばすことができなかった。

②指定管理者が行うべき事業

1) 必須事業

	なんでもやる隊 (定期：野外活動クラブ)			がまだす隊 (定期：野外活動クラブ)			春の野草を食べよう (4月)		
	目標人数	回	実数	目標人数	回	実数	目標人数	回	実数
4月							100名	1	139名
5月	30名	1	13名	30名	1	31名			
6月	30名	1	13名	30名	1	32名			
7月	30名	1	14名	30名	1	31名			
8月	30名	—	—	30名	—	—			
9月	30名	1	12名	30名	—	—			
10月	30名	2	9名	30名	1	28名			
11月	30名	1	16名	30名	3	87名			
12月	30名	1	13名	30名	1	27名			
2月	30名	1	14名						
延べ数	270名	9	95名	240名	8	266名	100名	1	139名

	ほたる観察会 (5月)			野外活動指導者講習会 (7月)			リフレスキャンプ (8月・12月)		
	目標人数	回	実数	目標人数	回	実数	目標人数	回	実数
5月	50名	1	117名						
7月				30名	2	29名			
8月							20名	1	28名
2月							30名	1	12名
延べ数	50名	1	117名	60名	2	29名	50名	2	40名

	星空観察会 (8月、2月)			レクリエーション指導 (依頼により実施)			キャンプファイヤー指導 (依頼により実施)		
	目標人数	回	実数	目標人数	件	実数	目標人数	件	実数
5月				—	1	93名	—		
6月				—	1	47名	—		
8月	50名	1	37名	—			—		

9月	50名	1	39名	—	1	111名	—		
2月	30名	1	20名	—			—		
延べ数	130名	3	96名	—	3	251名	—		

2) 提案事業

	ヨガ&健康体操 (通年定期)			親子陶芸教室 (6月・7月・8月)			親子刺しゅう教室 (7月)		
	目標人数	回	実数	目標人数	回	実数	目標人数	回	実数
4月	10名	12	164名						
5月	10名	9	148名						
6月	10名	13	154名	40名	1	35名			
7月	10名	13	96名	40名	2	56名	20名	2	56名
8月	10名	15	143名	40名	1	25名			
9月	10名	11	126名						
10月	10名	9	91名						
11月	10名	13	117名						
12月	10名	9	71名						
1月	10名	10	96名						
2月	10名	12	115名						
3月	10名	10	83名						
延べ数	1,390名	139	1,404名	160名	4	116名	40名	2	56名

	YMCA介護予防 (9月・10月)			寄せ植え教室 (5月・9月・12月・3月)			手提げ作り教室 (10月～11月)		
	目標人数	回	実数	目標人数	回	実数	目標人数	回	実数
5月				16名	1	12名			
9月	10名	1	1名	16名	1	9名			
10月	10名	1	3名				20名	2	39名
11月							20名	3	53名
12月				16名	1	18名			
3月				16名	1	15名			
延べ数	20名	2	4名	48名	4	54名	100名	5	92名

	ペン字講座 (4月・5月・10月・11月)			クリスマスリース作り教室 (12月:①親子・②大人)			親子クッキング教室 (1月)		
	目標人数	回	実数	目標人数	回	実数	目標人数	回	実数
4月	10名	2	16名						
5月	10名	2	17名						
10月	10名	1	—						
11月	10名	3	8名						
12月				①20名 ②18名	①2 ②1	50名 23名			
1月							20名	2	29名
延べ数	80名	8	41名	58名	3	73名	20名	2	29名

	アウトドアクッキング教室 (2月)			リフレッシュクッキング (1月～3月)			クライミング講習会 (1月～3月)		
	目標人数	回	実数	目標人数	回	実数	目標人数	回	実数
1月				16名	1	—	20名	3	15名
2月	20名	2	30名	16名	2	11名	20名	4	50名
3月				16名	2	14名	20名	1	15名
延べ数	40名	2	30名	64名	4	25名	160名	8	78名

[年間評価]

4月から7月の必須事業も提案事業も募集人数以上の参加者を集めて実施された。特に4月の春の野草を食べよう139名(募集定員100名)、ほたる観察会117名(募集定員50名)は多くの参加者を得た。小学1年・2年生向けの「がまだす隊」は人気で30名定員に対して33名の応募があった。小学3年生以上の「なんでもやる隊」は、塾やクラブ活動の活発化で16名(募集定員30名)に留まったが、その分密度の濃い体験を経験させられるメリットが生まれている。悪天候等で中止があった「がまだす隊」では、竹を使った「かっぱ飯づくり」を企画。親子で参加できる初めての取り組みを行った。

必須および提案事業ともリピーターの参加もあり安定した人数を確保している。しかし、小学3年生～小学6年生を対象とした「なんでもやる隊」やヨガ&健康体操など募集定員に満たない事業もあるため、他事業との連動、内容の見直しを行い、次年度募集につなげたい。

(2) 共同企業体による熊本県御船町所有の「御船町スポーツセンター及び町民グラウンド」の管理運営(共同企業体構成員:公益財団法人熊本YMCA、有限会社ゆうしん、有限会社スクラム)並びに「御船町地域支え合いセンター」の運営

ア. 御船町が所有する「御船町スポーツセンター及び町民グラウンド」の管理運営の受託及び当法人による自主事業の実施

※熊本地震発生のため、10月までは事業計画書に基づく事業が実施できない状況にあった。

11月より再開したプール、武道場等の施設利用及び自主事業の状況は以下のとおりである。

【活動計画及び目標人数】

①施設利用(11月～3月)

(1) 御船町スポーツセンター							
プール				アリーナ(使用不可)			
予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)	予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)
2,760名	2,276名	13,800名	11,380名	—	—	—	—

(1) 御船町スポーツセンター							
武道場				会議室			
予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)	予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)
700名	994名	3,500名	4,968名	120名	600名	139名	694名

(2) 御船町町民グラウンド(使用不可)			
予算 (月平均)	実数 (月平均)	予算 (累計)	実数 (累計)
—	—	—	—

②自主事業

	エアロビクス教室 (週 2 回)			ヨガ教室 (週 2 回)			腰痛改善教室 (週 1 回)		
	目標人数	回	小計	目標人数	回	小計	目標人数	回	小計
1 月	15 名	8	11 名	15 名	8	57 名			
2 月	15 名	8	18 名	15 名	8	69 名	15 名	4	6 名
3 月	15 名	8	11 名	15 名	8	80 名	15 名	4	6 名
延べ数		24	40 名		24	206 名		8	12 名

	親子体操教室 (週 1 回)			ベビースイミング (週 1 回)			グラウンドゴルフ大会 (2 月)		
	目標人数	回	小計	目標人数	回	小計	目標人数	回	小計
1 月	10 名	4	2 名	10 名	4	4 名			
2 月	10 名	4	2 名	10 名	4	12 名	100 名	1	113 名
3 月	10 名	4	18 名	10 名	4	14 名			
延べ数		12	22 名		12	30 名		1	113 名

	なんでもやる隊 (2 月・3 月)		
	目標人数	回	小計
2 月	20 名	1	14 名
3 月	20 名	1	20 名
延べ数		2	34 名

〔評価・進捗状況等（8 月～1 月）〕

10 月末まで避難所として運営され、11 月からは施設補修のためアリーナが 2017 年 9 月末まで閉鎖となった。そのため、プール、武道場、会議室での運営再開となった。運営再開の情報が浸透するまでに時間が掛かり、利用者数は伸びなかったが、1 月からは昨年の利用者数に近づく状況となった。プールに関しては、周辺のプール施設が閉鎖されているためこれまで利用のなかった団体、一般の利用が増えている。

自主事業は、1 月から順次スタートしているため、利用者の動向もこれから戻ってくると予想している。また次年度の募集も見越しながらの広報を実施した。

1 年の大半が避難所運営となり、本来の業務を遂行できなかった。しかし、得難い経験であったことも事実である。震災の影響により町民グラウンドが使用不可となったことは次年度の収入、運営に少なからず影響が出ると予想される。自主事業については、再開してからの集客について伸びが見られないため次年度は、自主事業の参加人数増を図るよう対応策を練っていきたい。

イ. 御船町地域支え合いセンターの運営

【支援業務内容】

①事前調査：ニーズ・課題の調査・把握等

独居者について、緊急時の医療情報、緊急時連絡先を収集し各対象世帯に緊急安心カードを設置した。

②総合相談窓口：避難者からの健康相談等や各種支援情報等の総合的な相談窓口

身体障がいのある仮設団地入居者に対し、町と連携して介護福祉サービスの見直しを行った。

③見守り活動・生活再建支援：生活相談員等による仮設住宅に居住する避難者への見守り・相談、連携機関とのつなぎ通じて、生活再建や自立を図る。

1 日に平均 40 世帯ほどを訪問して安否確認を含めた相談支援訪問を行っている。それぞれの課題に対し関係機関（地域包括センター、保健センター、町役場、NPO 団体等）に

情報提供を行っている。具体的な事例としては、住居解体に関し公費解体対象外のため、自力での解体をしなければならない高齢者に対しボランティア団体に協力を求め解体を行った。

- ④コミュニティづくりのコーディネイト:各種サロンの運営等により、各仮設住宅等内において、コミュニティを形成

週4回各仮設団地にて生活機能低下予防運動と交流レクリエーションプログラムを実施している。生活機能低下予防運動はリハビリ系医療機関と連携して行っている。また、主催事業を実施し住民の親睦と交流を深め、自助共助のために活動をしている。

- (3) 熊本県益城町所有の「益城町総合運動公園（益城町総合体育館、益城町陸上競技場、益城町総合運動公園テニスコート）、益城町町民体育館及び益城町町民運動場（5施設）」の管理運営並びに「益城町（木山団地）地域支え合いセンター」の運営

ア. 益城町が所有する「益城町総合運動公園（3施設）、益城町町民体育館及び益城町町民運動場（5施設）」の管理運営の受託及び当法人による自主事業の実施

※熊本地震発生のため、事業計画書に基づく事業が実施できなかった。

イ. 「益城町（木山団地）地域支え合いセンター」の運営

【支援業務内容】

- ①事前調査：ニーズ・課題の調査・把握等

独居者について、緊急時の医療情報を収集し、各世帯に緊急医療情報として設置をした。子どもがいる世帯に対し課題・ニーズ調査を実施した。

- ②総合相談窓口：避難者からの健康相談等や各種支援情報等の総合的な相談窓口
一般的な健康相談等を受け付けた。

- ③見守り活動・生活再建支援：生活相談員等による仮設住宅に居住する避難者への見守り・相談、連携機関とのつなぎ通じて、生活再建や自立を図る。

1日に平均40世帯ほどを訪問して安否確認等を実施している。また、課題がある世帯については、地域包括センターや心のケアセンター、保健センター、病院、役場へのつなぎを実施している。

- ④コミュニティづくりのコーディネイト:各種サロンの運営等により、各仮設住宅等内において、コミュニティを形成

茶話会、手芸、小物作りなどのサロンを週3回3ヵ所の集会所を回りながら、午前10時から午後3時まで開催している。平均15名度の参加者がある。また自治会の運営についても協力を行っている。

3. 不動産の貸付に関する事業

中央YMCA及び阿蘇YMCAの土地の一部を学校法人熊本YMCA学園に貸与

1) 中央	熊本市中央区新町1-3-8の土地のうち、460㎡を貸与
2) 阿蘇	阿蘇市車帰の土地のうち、1917㎡を貸与

4. 自動販売機手数料事業

各施設に設置している自動販売機の手数料収益

1) 中央	7台（前年度と設置台数変更なし）
2) みなみ	5台（前年度と設置台数変更なし）
3) ながみね	3台（前年度と設置台数変更なし）
4) むさし	5台（前年度と設置台数変更なし）

Ⅱ 処務の概要

1 評議員・役員等に関する事項

(1) 評議員

(2017年3月31日現在)

役職名	氏名	職業	就任年月日	担当事務	報酬	備考
評議員	小川祐一郎	教諭	2013年6月1日		無給	
評議員	立野 泰博	牧師	2013年6月1日		無給	
評議員	朴 哲浩	宣教師	2013年6月1日		無給	
評議員	藤本 義隆	自営業	2013年6月1日		無給	
評議員	来海 恵子	市議会議員	2013年6月1日		無給	
評議員	角本 浩	牧師	2015年5月31日		無給	補欠
評議員	横田 佳恵	高校非常勤講師	2015年5月31日		無給	補欠
評議員	島 優子	ピアノ演奏家	2015年5月31日		無給	
評議員	西川 晶子	牧師	2015年5月31日		無給	
評議員	福田 稠	病院理事長	2015年5月31日		無給	
評議員	藤本猪智郎	弁護士	2015年5月31日		無給	
評議員	森 博之	地方公務員	2015年5月31日		無給	
評議員	山内 恵美	団体職員	2015年5月31日		無給	
評議員	横田 博	自営業	2015年5月31日		無給	

(2) 役員 (理事・監事)

(2017年3月31日現在)

役職名	氏名	職業	就任年月日	担当事務	報酬	備考
代表理事	福島 貴志	(特活)理事長	2016年7月6日	理事長	無給	
代表理事	岡 成也	私学職員	2014年4月1日	専務理事	無給	重任
理事	内村 公春	(社福)理事長	2013年5月31日		無給	重任
理事	加藤 國博	自営業	2015年5月31日		無給	
理事	篠崎 泰子	デイサービス施設長	2015年5月31日		無給	
理事	宮崎 隆二	会社役員	2015年5月31日		無給	
理事	米村 謙一	自営業	2015年5月31日		無給	
監事	大崎 隆義	税理士	2013年5月31日		無給	重任
監事	岩本 悟	会社役員	2015年5月31日		無給	

2 職員に関する事項

(2017年3月31日現在)

	フルタイム	パートタイム	合計
講師職	40名	—	40名
事務職	59名	32名	91名
合計	99名	32名	131名

3 評議員会・理事会に関する事項

(1) 評議員会

開催年月日	出席数	議事内容	会議の結果
2016年6月16日	11名	〔決議事項〕 ・2015年度の計算書類等及び財産目録承認の件 〔報告事項〕 ・2015年度事業報告の内容報告	・計算書類等及び財産目録を承認 ・報告内容を了承
2017年3月16日	10名	〔決議事項〕 ・2017年度事業計画書承認の件 ・2017年度収支予算書等承認の件	・事業計画書を承認 ・収支予算書等を承認

(2) 理事会

開催年月日	出席数	議事内容	会議の結果
2016年5月30日	5名	〔決議事項〕 ・2015年度の事業報告承認の件 ・2015年度の計算書類等及び 財産目録承認の件 ・第1回評議員会招集の件	・事業報告を承認 ・計算書類等及び財産目録を 承認 ・招集を承認
2016年6月24日	8名	・代表理事選定の件	・代表理事として福島貴志理 事を理事長に選定
2016年8月22日	6名	〔報告事項〕 ・職務執行状況の報告について	・報告内容を了承
2017年1月19日	5名	〔決議事項〕 ・指定管理者受託に伴う変更認定申 請の件	・変更認定申請を承認
2017年3月7日	6名	〔決議事項〕 ・2017年度事業計画書承認の件 ・2017年度収支予算書等承認の件 ・第2回評議員会招集の件 〔報告事項〕 ・職務執行状況の報告について	・事業計画書を承認 ・収支予算書等を承認 ・評議員会招集を承認 ・報告内容を了承

4 会員に関する事項（会員数の推移）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
普通会員	6,611	5,821	5,821	6,167	6,198	6,328	6,519	6,495	6,458	6,362	6,354	6,285	6,285
維持会員	1,059	1,051	1,062	1,067	1,073	1,079	1,075	1,077	1,072	1,077	1,071	1,059	1,069
合計	7,670	7,662	6,883	7,234	7,271	7,407	7,594	7,572	7,530	7,439	7,425	7,344	7,354

Ⅲ 附属明細書

2015年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。